

群馬県立富岡高等学校 学校評価一覽表① (令和3年度版) 全日制

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランやコース制を導入した富岡高校に入学して良かったと感じている生徒・保護者の割合が90%以上である。	教育方針、重点指導目標に基づき、学習活動、進路指導、特別活動や部活動などの取組が生徒の意欲を喚起し、充実した学校生活となるよう工夫する。	A 94.1%	B 生89.4% 保94.9%	進路指導部や生徒指導部と連携し、本校の特色ある教育活動について理解を図る。そして、日々の学校生活に目標や目的を持たせ、さらに充実した学校生活を送れるように支援する。	A 92.9%	A 生92.3% 保92.8%	学校や社会の状況や生徒の現状を踏まえ、各分掌と連携し黒門キャリアプラン、コース制の内容を適宜修正し、生徒・保護者が入学して良かったと感じられる学校づくりをする。	
		生徒指導や進路指導を始め、特別活動や部活動等の学校教育活動全般について信頼していると考え保護者が85%以上である。	本校の教育方針や教育活動について保護者に理解を求めるとともにPTA・同窓会・学校評議員からの意見を学校運営に反映させる。	A 100.0%	A 生90.8% 保94.1%	進路指導部や生徒指導部・保健教育相談部と連携し、本校の特色ある教育活動を生徒や保護者から理解や信頼がより多く得られるように、内容や進め方を検討する。	A 92.7%	A 生91.4% 保93.8%	HPやメール連絡網での情報を積極的に発信するとともに、三者面談やクラス懇談会等を通して双方向の意見交換ができるよう努力する。また、各分掌と連携し、本校の特色ある教育活動を生徒や保護者から理解や信頼がより多く得られるように、内容や進め方を検討する。	
	2 学習と特別活動(部活動・ボランティア等)の両立を目指した教育を推進していますか。	「文武両道」を推進する体制ができていてと感じている生徒が85%以上である。	本校の教育方針を生徒や保護者に明示し、クラス担任・教科担任・部活動顧問が連携して文武両道を指導する。	A 90.9%	B 生80.8% 保86.6%	自己管理能力を身につけさせるため、黒門手帳を活用し、部活動・ボランティア等の予定を踏まえた学習計画を立てさせ、文武両道を目指す。	A 90.0%	C 生72.2% 保83.7%	クラス担任・教科担任・部活動顧問が連携して生徒の放課後の時間の使い方を検証するとともに、黒門手帳の活用をより進め、自己実現につながる指導を目指す。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	各教科で丁寧で分かりやすい授業を行っていると感じる生徒が90%以上である。	生徒の実態を把握しICT機器を積極的に活用しながら、基礎基本を身につけさせるような授業を実践するとともに、主体的・対話的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を育成するような授業を実践する。	A 100.0%	B 生90.3% 保86.3%	日々の授業改善や職員研修を通し、学力向上に結びつく授業の一層の充実を図る。また、生徒や保護者に対して授業についてのアンケートを実施し、意見を募り、参考にしていく。	A 94.9%	B 生93.9% 保85.5%	生徒や保護者に対して授業についてのアンケートを実施し、意見を募り、参考にしていく。また、ICT機器やシラバスを積極的に活用し、生徒の主体的な学習を促す授業の実践を目指す。	
		4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が80%以上である	教職員が相互に情報交換し合って授業改善に取り組み、生徒の進路実現を可能にする学力を身につけさせる。	A 97.0%	C 生73.8% 保79.2%	各教科で授業改善に取り組んでいただくとともに、進路指導部では今後の課外、黒門道場のあり方を見直していく。	A 97.5%	C 生75.2% 保76.3%	各教科で授業改善に取り組んでいただくとともに、進路指導部では1.2年の夏季課外を全員参加とし、黒門道場は1日参加×3日間で希望者参加とするなど改善を進める。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に4回程度実施する。	学年会議を授業の時間に実施する。授業その他あらゆる場面で、生徒の様子についてきめこまやかに観察し、気づいた点は記録して、職員間の報告・連絡する。	A 97.0%	B 生80.1% 保76.0%	悩みや問題を抱えた生徒だけでなく、特に問題の無い生徒にも接する機会を可能な限り確保していくように努める。	A 90.0%	B 生88.% 保81.3%	生徒・保護者には状況を伝えにくい内容であるが、各分掌、各学年、企画委員会等で組織的に情報を共有するシステムは構築されている。引き続き、職員間の報告・連絡を密にする。	
		6 学校ははじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	「学校ははじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている。」と認識している生徒が90%以上である。	日々の教育活動を通じて、生徒どうしのつながりを深め、その生徒の様子を細やかに観察する。	A 97.0%	A 生98.8% 保98.4%	日常の学校生活のあらゆる機会・場面を通じて、より良い人間関係の構築につながるように心掛ける。コロナ禍における生徒の変化に敏感に対応する。	A 97.6%	A 生99.2% 保98.5%	日々の生徒の様子を観察することを怠らない。教員間で情報を共有する。特に、学年間、分掌間のつながりを密にして、早期発見、早期解消に努める。
		7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	部活動に加入している生徒が、90%以上である。	学校生活の基本である授業及び部活動・生徒会活動が充実したものになるよう教職員全体で取り組む。	A 90.0%	A 入部率 91.8%	加入率は高いが、コロナ禍で部活動禁止期間が長期化している。そのような状況下でも、基本的生活習慣を確立できるよう支援していく。	C 75.0%	C 生62.% 保78.2%	コロナ禍により、部活動や生徒会活動は大幅に活動制限された。今後も、感染防止対策を徹底した上で、可能な限り開催できる方法を模索する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	黒門キャリアプランの様々な企画(課題解決型インターンシップ、探究活動など)が、自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	黒門キャリアプランの各企画の意義を理解させる指導を十分に行い、生徒が自身の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持つような取り組みを展開する。	A 97.0%	B 生79.8% 保85.7%	現状の黒門キャリアプランをベースに、生徒の意見(黒門キャリア行事(課題解決型インターンシップや探究活動発表会など)後のアンケートなど)を分析し、より改善していく	A 90.2%	B 生79.3% 保85.4%	現状の黒門キャリアプランをベースに、生徒の意見(黒門キャリア行事(課題解決型インターンシップや探究活動発表会など)後のアンケートなど)を分析し、より改善していく	
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて、計画的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上である	クラス担任、教科担任、部活動顧問等、生徒に関わる全ての職員が進路実現のための共通した認識を持ち、授業や家庭学習、課外等に取り組ませていく。	A 93.9%	C 生71.3% 保71.0%	職員の共通認識のもとに、課外等の改善や生徒が記録する黒門手帳のあり方の検討など、生徒が取り組みやすい形に改善していく	A 87.5%	C 生72.8% 保73.9%	進路実現に効果的な授業、課題、課外について教科や研修係とともに検討する機会を設ける。生徒への黒門手帳の書き方マニュアルを最低限記入することに絞って作成するなど運用の改善に努める。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	学校の様子や生徒の様子がよく分かっていると考える保護者が80%以上である。	「富高通信」や「学年通信」等の発行並びに「写真ニュース」を始めとする学校Webページの充実を図る。メール連絡網、生徒用GSNアカウントなどを活用し、保護者・生徒に対して、積極的に情報を提供する。	A 100%	A 生88.5% 保92.5%	Webページのデザインを変更し、更新も昨年度よりも頻繁に行っている。オンライン授業により、クロームブックの扱いに生徒が慣れたため、生徒アカウントを使用しての連絡も有効であると考えられる。積極的に活用していく。	A 95.1%	A 生89.5% 保96.1%	1学期と同様高い数値を維持することができた。Webページは1学期よりも頻繁に更新することができている。また、全職員がWebページ更新することができるようにした。	
		「富高通信」「学年通信」等の学校からの通信を毎月発行し、学校の様子を保護者に伝える。	メール連絡網を利用し、配付物の連絡等、保護者に確実な情報提供を実施する。	A 100%	B 生81.0% 保95.1%	メール連絡網での情報発信は昨年度よりも頻度を上げてすることができた。継続して取り組むたい。	A 95.2%	A 生82.7% 保95.9%	メール連絡網の情報発信については、2学期も頻度を落とさず、継続して行うことができた。	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICTを使用した授業改善を行っている教員を80%以上にする。	ICTを使用した授業の研修を行う。各教室へプロジェクターを配備し、整備を行い使用しやす環境を維持する。	A 97.0%	B 生77.6% 保87.0%	ICTを積極的に活用した授業を推進するために、活用例や使用方法を紹介する場を多く設ける。	A 92.7%	A 生90.3% 保91.7%	オンライン授業を実施したため、多くの先生が授業でICTを使うことになり、スキルが向上したと考えられる。ICTを使った授業の効果を共有していきたい。	
		12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ICTを用いた業務改善を2つ以上実施する。	グーグルフォーム及びスプレッドシートを用いて、アンケート調査や生徒の学習時間量の集計を実施する。	A 84.8%	B 生73.2% 保86.6%	アンケートはスプレッドシートを用いて実施することができた。今年度は分散登校でのグーグルミート使用など、大きな変化があったため、よりオンライン授業がしやすい環境を整えていく。	B 100.0%	A 生92.8% 保96.2%	学校評価・授業アンケートは1学期よりもさらにスムーズに実施することができた。生徒教員ともにアンケート機能に慣れたため、来年度は更に使用率が上がることが予想される。
VII 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	13 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	悩みを抱える生徒や特別な支援を要する生徒について、その状況の理解把握は90%以上出来ている。	教育相談係・学年・生徒指導部等の会議の定期的開催、及び特別支援委員会の随時(適宜)開催を通じて、職員間の情報共有と連携を促進し、迅速かつきめ細やかな対応に取り組む。	A 97.0%	A 生87.5% 保85.5%	職員間の情報共有等については、ケース会議の開催も含めて、昨年より改善できている。今後は、生徒と保護者への教育相談に関する情報提供の頻度を高めるなどして、本校の取り組みについての理解を高めていく。	A 100.0%	A 生88.5% 保87.9%	第1回点検・評価よりも僅かではあるが、数値は向上したことから、今年度の取組を定着させ、今後の本校の指導方法として、根付かせていく。	